

# 『明治 150 年』 記念企画 「佐藤孝三郎氏ゆかりの地を巡る」



7月21日、明治元年小塩生まれの行政官「佐藤孝三郎氏ゆかりの地を巡る」と銘打ち、明治元年(1868年)から150年を記念した行事が開催されました。

かわせみホールで、講師の浮羽まるごと博物館協議会会長佐藤好英さんの説明後、孝三郎氏が生まれ育った小塩地区を中心に8か所を参加者36人で巡りました。

## ～ 明治元年、小塩生まれの行政官 ～

### □ 佐藤 孝三郎 (さとう・こうざぶろう) 氏

明治元年(1868)、小塩村(現・浮羽町小塩)生まれ。福岡師範学校卒業、浮羽郡市杵高等小学校で教鞭をとる。上京後、東京専門学校修了、高等文官試験に合格。内務省に入り、福井県知事・名古屋市長・函館市長等の要職を歴任。

昭和44年(1969)逝去。子息の佐藤達夫(さとう・たつお)氏(1904-1974)は法制官僚で法制局長官や人事院総裁を務めた。



佐藤 孝三郎 氏



写真＝小塩の岩屋堂(明治10年ごろ、孝三郎氏は当地の小塩村尋常小学校に通う)。その後、浮羽町朝田にあった市杵高等小学校に通う。



写真＝小塩の真美野神社内の同氏の歌碑「帰来て 千年川へに 吾たては まねくか如し 錦屏の峰」前で、講師の佐藤好英さんの説明



写真＝山北の国登録有形文化財「楠森河北家住宅」(同氏の妻の実家)で、ゆかりの品々について思い出を話される当主の河北宣正さん(右端)



写真＝隈の上の光教寺(佐藤家菩提寺)で、本堂に掲げられる同氏自筆の額(「持晃山」の字)について説明される清原瑛通住職